



きものday結城



結い市



新 | 春 | 座 | 談 | 会 結城のまちづくり ひとつづくり

明けましておめでとうございます

現在、結城のにぎわいづくりのため、まちに眠る地域資源が掘り起こされ、いろいろなかたちで活用されています。今後、結城の魅力を伝え、交流人口を増やしていくためにはどうしたらいいのか、「結城のまちづくり ひとつづくり」をテーマに、市民の皆さんにお話を伺いました。

(コワーキング&カフェ yuinowaにて収録)

まず始めに自己紹介と現在の活動(仕事)を始めたきっかけ・活動内容についてお聞かせください

奥澤— 奥澤と申します。この仕事をやるきっかけは、母からの遺言だったんです。当時就職が商社に決まっていたんですが、「どうしても家の仕事をお兄ちゃんとやってくれないか」と言われ、父と兄とも相談して、最後にはどこで仕事をやっても一緒かなと、そんな思いでこの仕事を始めました。

若いときは、全国沖縄から北海道まで年間250日くらい出張していました。そのときに外からの結城のすばらしさを見ることができたんですね。文化っていうのは非常に幅広いですけども、私は特に手作りの中に文化が宿っていると思っていますから、そういう意味でいろんな手作りが結城にはある。まあそんなことでそれが町おこしにも役に立つのではないかなと思っています。私は、歴史と文化を大事にしたらこのまちは生きていけるんじゃないかなと思っています。

石嶋— 石嶋佐知江です。私は昨年6月から北口で飲食店をやらせていただいています。始めたきっかけは、前職を一昨年の末に辞めて、1カ月くらいはゆとりしてから次の職を見つけようと思っていたんですが、結婚前に飲食店で働いていたことを知っていた友人から「お店始めちゃえば」と言われ、「じゃ、やろうかな」と。そして友人が「いい人紹介するよ」ってなり、それが飯野さんでした。「北口に色んな空き店舗があるよ」っていうので、何件か紹介してもらい、その際に野口さんも

紹介してもらいました。そして、友人や知人を巻き込んで、導かれるかのようにどんどん話が進み、そんなに資金もかけず、すごく良い大家さんにも恵まれ、お店をやることになりました。

飯野— 飯野勝智と申します。結いプロジェクトという活動を立ち上げて10年目になります。僕の本業は建築士ですが、建築を学んでいく中で結城の魅力に気がきました。きちんと発信すれば、もっと面白いまちになるんじゃないかなと思ったのが活動のきっかけです。20代はどう活動したらいいかすごく悩んでいたんですが、まちづくり機関の(株)TMO結城(以下、TMO)で野口君と知り合って、二人で話していくうちにお互い共通するものがあって盛り上がるなかで、結いプロジェクトの結いは、世界遺産の白川郷の合掌造りの屋根のふき替えを一人じゃできないけどみんなでやれば小さなことでも大きな作業ができるっていう結いの精神、結いの想いがあるので、それはまさに結城の結ぶそのものだなと思う、結いプロジェクト、結い市という結びの市を始めました。

いろいろな活動を続けていく中で北側がすごく高齢化が進んでいることも見えてきましたし、それでも結城市には文化もあって歴史もあって、若い人から見ても面白いものがたくさん残っているんです。石嶋さんみたいに何かチャレンジしたい人が結城に来て何かできるような土壌を作っていけたらいいなと考えながら活動してきました。

野口— 野口純一と申します。私は大学卒業

後、アパレルで働いていましたが、縁があり結城商工会議所に転職しました。TMOの事務局担当となったのがきっかけで、飯野君とも知り合いました。

私も奥澤さんと一緒に、いい意味で外から結城を客観的に見る目っていうのがあったのかなと。それで、そういった部分が地元にいる飯野君たちと交わって、結いプロジェクトという団体を立ち上げて活動しています。結城がもともと持っている潜在的な魅力に、メンバーや関わっている人たちの新しい価値観を加えることで、結城というまちがもう一度きちんと見直されるきっかけになるんじゃないかと活動をしてきました。このような活動の目的は、結城のまちづくりでは、新しい人材だとか世代交代が進んでいない部分がある中で、うまく担い手となる人材を誘致し、ともに成長しながら結城を労働の場・稼げる場にするということで、まちの新陳代謝を図れたらいいなと考えています。10年かけてようやく石嶋さんのような北部市街地での創業希望者が何組かできてきました。

市長— 私は昭和58年に市議会議員に立候補し7期務めました。そのあと市長選に挑戦し、現在2期目を務めています。今日は、みなさんのような若い世代の方と対談できる場を設けることができ、たいへんうれしく感じています。結城のまちはいいまちなので、みなさんの意見を聞き、ぜひ今後のまちづくりの参考にさせていただきたいと思っています。今日は、どうぞよろしくお願いいたします。